



ユニセフ講演会「ネパール大地震と復興への歩み」

天理大学共催 公開講座

講師：天理大学 関本克良 准教授

平成29年
11月4日(土)

支援・復旧は順調、国政が不安定で復興は遅れ気味

2017年11月4日、県ユニセフ協会と天理大学の共催によるユニセフ講演会が、大学祭でにぎわう天理大学のキャンパスにおいて開催されました。

講師の関本克良准教授は、天理大学が全国各地で貢献活動を行っている「国際参加プロジェクト」を担当。ネパール大地震と復興の歩みについて報告がありました。

天理大学「国際参加プロジェクト」は2001年のインド西部地震の復興支援活動から始まり、今年で18回目となる大学生による海外ボランティアプログラムである。2017年2月、ネパールの小学校を訪問して教育支援活動を行った。

ネパールなどの発展途上国では、学校や教員などの教育資源の不足によって、音楽、体育、美術などの副教科の授業が行われていない場合が多い。日本の小学校では当然のように教えている副教科は、豊かな情操を育む情操教育として、教育の目的である人格の完成に必要な教育課程であると考えられている。ネパールの小学校で、情操教育の大切さを伝えようと、学生たちが自ら準備した音楽、美術、体育の授業を通して教育支援活動を行った。



体育を通して教育活動を支援

ネパールでは、2015年にマグニチュード7を超す大地震が二回

発生し、国連によると死者8891人、80万世帯の家屋が倒壊し、貴重な観光資源である多くの世界遺産も大きな被害を受けた。実は、大地震から2年経った今も震災復興はなかなか進んでいない。その主な原因は政治の不安定にある。

ネパールでは90年代から続く内戦の結果、2008年に王制を廃止してから国内政治が不安定となり、地震発生当時に憲法が存在しない状態だった。海外から義援金が届く中、地震から半年後に憲法を制定した。しかし、新憲法に対して国内外(特にインド)から強く反発する動きがあり、新憲法の下、約20年ぶりの国政選挙が2017年によりやく実施されるという状況である。

行政主導の復興が進まない中でも、ネパール人同士、また海外からの国際支援のネットワークによる復興支援活動が進められており、本学学生もネパール人による炊き出しやNGOによる復興のためのレンガ造りの作業に参加してきた。大地震の痛みの中から人々の助け合いの精神と、よりよい国造りの努力が生まれている。それを少しでも応援、支援していければと考えている。(関本克良准教授 筆)



復興のためのレンガ造り作業に参加

全国の皆さまからご支援いただきましたユニセフ「ネパール大地震緊急募金」は、受付を終了いたしました。

これまでに18億795万2422円もの浄財をお寄せいただきました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

事務所を移転しました

2018年1月 事務所を下記に移転しました。

新事務所 〒630-8301
奈良市高畑町1116-6 ^{どれん}なら土連会館2F
「猿沢の池」東側の辻(飛鳥荘の北)東入200m
(最終ページに地図を掲載しています)
電話、FAX、メールアドレスは変更なしです



こちらにお出かけの際は、是非お立ち寄りください!

募金協力(学校・その他団体) 2017年7月~12月 ご支援ありがとうございました!

奈良県協会お預かり分(敬称略) 本部への直接振込分を除く

今西清兵衛商店、南加茂台シルバークラブ、榛生昇陽高等学校
育英西中学校・高等学校育西会、一条高等学校、奈良市音楽館
佐保ゴルフクラブカードメンバーズゴルフコンペ参加者
佐保商事、生駒南中学校、平城小学校、平城高等学校
連合奈良、崇徳寺檀信徒有志一同

※学校内募金等の贈呈式にお伺いいたします。ご連絡ください。

2017年 7月～12月 活動報告

2017年10月3日～15日 ユニセフ写真パネル展を開催しました

アグネス大使グアテマラ訪問

「見えない脅威と闘う、“最初の1000日”」

会場:奈良県図書情報館

2017年10月3日～15日、奈良県図書情報館の1階ロビーにおいて写真パネル展「アグネス大使グアテマラ訪問「見えない脅威と闘う、“最初の1000日”」を開催しました。

コーヒーの産地として知られるグアテマラ。グアテマラの5歳未満児のほぼ2人にひとりには慢性的な栄養不良による“発育阻害”で、ラテンアメリカでは最も高い数値です。

ユニセフは、子どもの発達に最も重要な、胎児期から2歳までの1000日間に集中的な栄養改善に取り組むことで、発育

障害から子どもたちを守る『最初の1000日』活動を世界で展開しています。

アグネス・チャン ユニセフ・アジア親善大使は、栄養問題を国の最優先課題と位置付けるグアテマ

ラで、ユニセフが、そしてそこで暮らす人々が、どのように栄養不良と闘い、人生の『最初の1000日』の栄養改善に取り組んでいるのかを取材しました。

会場においてあるノートに、写真パネル展を見た方から「貧しい生活に耐えながら暮らす人々の生活が、パネルを通じて伝わってきました。ユニセフには募金に協力させてもらったことがあります。今後も行いたいと痛切に思いました」との感想文が記されていました。



奈良市役所で写真パネル展を開催

「子どもたちにやさしい地球を残そう」

2017年8月28日～9月1日

2017年8月28日～9月1日、奈良市役所1階の連絡通路において、写真パネル展「子どもたちにやさしい地球を残そう」を開催しました。

来庁の皆さまへ、現在、子どもたちが置かれている厳しい状況を紹介するとともに、子どもたちにやさしい地球を残すために、ユニセフと一緒に考え、行動していただくことを呼びかけました。



ロヒンギャ難民 緊急募金にご協力を！

2017年8月25日以降、暴力から逃れるためにミャンマーのラカイン州からバングラデシュに避難してきたロヒンギャ難民は50万人以上。その6割を占める30万人以上の子どもたちが今、危険にさらされています。

仏教徒が9割近くを占めるミャンマーには「イスラムお断り」を掲げる村や地区があり、「イスラム教徒がいるとトラブルが起こる」からと住民たちは異教徒の居住を拒否すると言われています。

英領植民地時代から続く反感は、民主化が進む中で強まる気配すら見せています。2017年8月25日以降、多数を占める仏教徒の迫害から逃れるために、バングラデシュに避難してきたイスラム教徒の「ロヒンギャ難民」は50万人以上、その6割を占める30万人以上の子どもたちが今、危機にさらされています。

多くの人々が何日も身一つで逃げてきており、衣食住の不足をはじめ病気や伝染病への緊急の対策・保護が待たれています。

難民キャンプでは十分な住居スペースもなく、降雨による湿地やトイレ事情の悪さから伝染病の発生や清潔な水の不足等、厳しい環境の中、病気や伝染病の発生に危惧しながら飢えや疲弊に苦しんでおり、多くの方がケアを必要としています。

特に子どもたちにとっては、生命の危機を目の当たりにしており、今すぐ安全な場所の提供と、命をつなぐ支援の確保が求められています。

ユニセフでは、子どもたちとその家族への支援活動を拡大し、安全な水の提供・衛生設備の配備を可能にする緊急支援物資の提供のほか、予防接種、学習センターの設置や教育キットの提供等を積極的に行っています。

今回の危機以前から、バングラには多くの「ロヒンギャ難民」が既に身を寄せており、甚大な人道危機を迎えています。

危機下にある「ロヒンギャ難民」の子どもたちと家族に、皆さまのあたたかいご支援・ご協力をお願いいたします。



避難キャンプにたどり着き、幼い子どもを抱いて座り込む、ロヒンギャ難民の女性。

生駒市立 生駒南中学校(1年生70名) 文化発表会で「ユニセフ」を研究発表

生駒市の全図書館から資料を取り寄せ、
「世界の子どもの様子とユニセフ活動」を調査・学習

2017年9月22日に開催された生駒市立生駒南中学校の文化発表会において、同校1年生70名の生徒たちがユニセフにつ



いての研究発表を行いました。

生徒たちは6グループに分かれ、ユニセフが支援している「保健」「栄養」「水と衛生」「教育」「保護」「緊急支援

6グループに分かれ研究・発表の6つの分野について、夏休み明けから学習・研究に取り組みました。学校の図書をはじめ、生駒市内の全図書館の協力を受けて取り寄せた60冊のユニセフ関係の冊子や、インターネットから検索して集めたデータをもとに、世界の子どもの様子やユニセフ活動について調べました。

「なぜ困っているのか」「私たちにできることは何か」を話し合い、分野ごとにまとめて模造紙大の壁新聞を作成しました。

発表会の当日、6つの分野に関する“地雷(模型)”や現地で使用している“水がめ”、マラリヤ予防の“蚊帳”を展示し、先生の指導のもとに制作したパワーポイントを映写して研究成果をみんなの前で発表しました。



渡り廊下で募金を呼びかけました

一方、渡り廊下に生徒たちが立って、発表会に来られた保護者や教員の皆さんにユニセフ募金への協力をお願いしました。また10月25日と26日には校門前で登校する生徒たちにユニセフ支援を呼びかけ、集まった募金と保護者や教員の方々からの募金と合わせて、ユニセフへ寄せられました。

この活動に対して、2017年11月に日本ユニセフ協会から「We Support UNICEF 賞」が贈られました。

— 出前学習会を行いませんか —

奈良県ユニセフ協会ではスタッフが学校を訪問して学習を行う、出前学習(講師派遣)を行っています。

映像や体験などを取り入れ、「今、世界でどんなことが起きているのか」「世界の子どもたちはどんな生活をしているのか」を学びます。



※ DVD教材等の貸し出しも行っています。お問い合わせください。

ご協力、ありがとうございました!

2017年7月~2017年12月までの間、奈良県ユニセフ協会にお寄せいただいた募金総額は、
¥ 1,062,567 - にのぼりました。

皆さまの温かいご支援に
心よりお礼申し上げます。

※振込用紙の通信欄に「県協会コード K1-290」とご記入いただいた分も含まれます。
※募金総額は速報値です。



住友生命「第41回こども絵画コンクール」

配布画用紙・応募作品の点数に応じてユニセフへ寄付

仏ルーヴル美術館に 入賞 105 作品(奈良から4作品)が展示!

期間 2018年 3/2~4/2

— 日本ユニセフ協会、奈良県ユニセフ協会 後援 —

“未来を担う子どもたちの心豊かな成長をお手伝いしたい”そんな思いから生まれた住友生命の「こども絵画コンクール」は、今回で41回を迎えました。幼児、小学生、中学生から作品を募集、支社審査・全国審査を経て選ばれた特別賞・金賞・銀賞の入賞作品100余作品が、毎年、フランスのルーヴル美術館に展示されます。

「こども絵画コンクール」を通じて、住友生命から日本ユニセフ協会へ、コンクールで配布された画用紙1枚につき1円、応募作品1点につき10円を寄付していただいています。日本ユニセフ協会はこの絵画コンクールを後援しており、奈良県ユニセフ協会も、奈良支社展覧会を後援しました。

過去40年間で応募作品は1,099万点を超え(今回応募数:



奈良支社の応募作品

全国21万2,858点、奈良支社4,313点)、ルーヴル美術館での展示は18年目を迎えました。今回も2018年3月2日から4月2日の間、入賞105作品が展示される予定です。

奈良支社からは、作品「うさぎさんに人参あげているの」(3歳女児)が日本ユニセフ協会会長賞を受賞し、同作品を含む入賞4作品がルーヴル美術館に展示されることとなりました。

なお、2018年度の「こども絵画コンクール」の応募期間(奈良支社展覧会)は2018年4月1日から6月30日までの予定です。

配られる画用紙と応募される作品が増えるごとに世界の子どもたちへの支援が大きくなります。2018年度も多くの応募があることを期待しています。



日本ユニセフ協会会長賞受賞作品「うさぎさんに人参あげているの」(住友生命 HP より)

ボランティア募集

奈良県ユニセフ協会では、下記の活動を手伝っていただけるボランティアを募集しています。

学生の方も大歓迎です。

世界の子どもたちの現状、ユニセフやボランティア活動に関心をお持ちの方、私たちと一緒に楽しく活動を始めませんか。

お気軽に事務所までお問い合わせください。

- ◆ 募金活動
- ◆ イベント参加
- ◆ ユニセフ学習会講師
- ◆ 機関紙発行
- ◆ 事務所でのお手伝い



外国コイン募金

旅行や出張で海外に行ったことがある方なら、余ったコインや紙幣がお手元に残っていませんか？

一部の国の紙幣を除けば、外国通貨は日本では両替することができません。記念品やおみやげにするのも楽しいですが、余ったコインを世界の子どもたちのために役立ててみてはいかがでしょうか。



日本ユニセフ協会では民間企業5社の協力をいただき、こうしたコインを海外に輸送することでユニセフの活動資金にする「ユニセフ外国コイン募金」を行っています。ご協力をお願いいたします。

- *奈良県ユニセフ協会事務所へご持参ください。
- *普通郵便や宅配便で奈良県ユニセフ協会事務所へお送りください。(送料はご負担願います。)



あなたの身近に、眠っている外国コインありませんか？

賛助会員募集

日本ユニセフ協会の趣旨に賛同して下さる会員を募集しています。

賛助会員とは、日本ユニセフ協会と奈良県ユニセフ協会の運営を、年会費によってご支援いただく方法です。

種類	対象	賛助会費	賛助会員期間
一般賛助会員	個人の方	1口5千円	入会月～1年間
学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口2千円	入会月～1年間
団体賛助会員	団体・法人・企業	1口10万円	入会月～1年間

- *一般・学生賛助会員は、個人名でのお申し込みに限ります。
- *賛助会費は寄付金控除の対象になります。
- *会員期間は入会月から一年毎の更新となります。
- *賛助会費は、1口以上何口でもご協力いただけます。

編集後記

北朝鮮の弾道ミサイル発射が世間を騒がせているなか、米のエルサレム首都への大使館移転が世界に反響を呼び、テロや紛争の再燃が一触即発の危うさで懸念されています。

紛争発生となれば多くの方が生死の境に立ち、常に最初の被害を被る子どもたちへの影響が心配されます。

世界にはまだまだ支援を必要とする事象が多く、今後ともみなさまからのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



県ユニセフ協会は新年から新しい事務所で開催を行っています。新事務所は猿沢の池の近くの「なら土連会館」2階です。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。(M.K.)

※ 鹿のイラストはすべて、ボランティア大西好美さんの作品です。



奈良県ユニセフ協会

〒630-8301

奈良県奈良市高畑町 1116-6 なら土連会館2階

TEL : 0742-25-3005 / FAX : 0742-25-3008

E-mail : unicef-n@m4.kcn.ne.jp

ホームページ : <http://www.unicef-nara.jp/>

※事務所開所日：月・火・水・木 11:00～16:00

募金して頂ける方、ユニセフDVD等の資料をご入用の方、ユニセフ支援ギフトにご協力いただける方など、お気軽にお越しください。

※ 2018年1月 事務所を移転しました

